



第24回 全国棚田千枚田
サミット 長野県
おたりむら
小谷村

平成30年9月8日(土)・9日(日)

「集う」仲間と「守る」暮らし

北アルプスの水と土で育む棚田の絆



開催趣旨

農村風景には、山があり、川があり、民家があり、そして『棚田』がある。この風景は、人々に“安らぎ”や“癒し”を与える力もある。この貴重な農山村環境を維持していくには、ここで生活する人々が力を合わせ、生活を守っていく姿勢が必要である。とりわけ山間地農業は、生産が落ち込み、高齢化・離農していく情勢ではあるが、積極的な交流や支援をしてくれる都市住民もいる。

農業に理解ある仲間が集まり、そして環境を守る活動を推進し、これからの棚田を中心とした山間地農業のあり方を考える。

9月8日(土)

時 間	内 容	会 場
09:30～	オープニングイベント	榑池社会体育館
10:00～	開会式	榑池社会体育館
10:30～	小谷村事例ディスカッション	榑池社会体育館
休憩・昼食・移動		
12:00～	映画「アラヤシキの住人たち」ダイジェスト版上映	榑池社会体育館
13:30～14:50	分科会1部 ※右ページ1～8より選択	榑池エリア各所
休憩・移動		
15:10～16:30	分科会2部 ※右ページ1～8より選択	榑池エリア各所
休憩・移動		
18:30～20:30	全体交流会	ホテルグリーンプラザ白馬

9月9日(日)

時 間	内 容	会 場
07:30～	北アルプスめぐりツアー	
11:30～12:00	閉会式	榑池社会体育館
12:00	解散	

事例ディスカッション



これからの農業を考える！ ～山間地農業の共存の在り方～

高齢化・担い手不足など全国的な問題が山積みの農業。この小谷村の農業情勢について、大きな転換期を迎えています。このままいくと、農地から荒野や山林へ転換され、民家・棚田・里山が一体とした農村風景が壊滅してしまう。小谷村の良いところを理解して応援してくれる『集う仲間』。また、そこで生活する人々が農地を守っていく『守る暮らし』。小谷村の実情を発表するとともに、この環境を踏まえ、地勢や環境から考えた農地保全体制や、農業と生き物との共存、また観光資源との棚田のつながりなど、今後に向けた政策について考えます。



松本 久志 さん
小谷村村長



内川 義行 さん
信州大学学術研究院農学系助教



武生 雅明 さん
東京農業大学地域環境科学部教授



1

中山間地の過疎を救う



～ 移住農業女子が集まる魅力～

女性の活動を主題とし、なぜ移住・就農の地としてこの場所を選んだのか、どこに魅力を感じたのかにスポットをあて、過疎地域を救う女性たちの可能性を考える。各氏、活動内容や今後の展望などについて、参加者との車座対話を行う。

CAST

藤原 真弓さん(伊折農業生産組合・古民家「ゆきわり草」管理人)
福永 朋子さん(新規就農者)
稲澤 そし恵さん(元信濃大町地域おこし協力隊・大町市新規就農者)

2

考えよう！ 農と観光のコラボレーション



～ 棚田の生き残りに賭ける～

「農」を取り巻く環境は年々厳しさを増しており特に「棚田」の保全維持は困難である。棚田の価値とは？生き残る策は？長野県内でも、農業体験・棚田環境を利用し付加価値を上げている人がいる。その事例と今後の展開を考えてみましょう。

CAST

石井 史郎さん(特定非営利法人まちもり理事長)
「地域おこし協力隊」「棚田保全委員会事務局」「地域おこしNPO代表」として稲倉の棚田の観光化事業を推進

3

小谷村の暮らしから見る“食と農”



～ 箱膳が伝える『食べごとの心』～

『和食』は世界の無形文化遺産であり、日本人の伝統的な食文化である。

昔からのいい伝えを食で表し、食で通じた地域性とは？食と農を結ぶ伝統の『和食』について、向かい合ってみましょう。

CAST

池田 玲子さん(長野県農村文化協会 常任委員)
農村の生活改善を推進
農村女性を勇気づけ、学習と実践・ネットワークづくりを応援

4

棚田の保全と整備を考える



昔から、見事な棚田が存在するのも、その地域の人々の苦勞の賜物である。しかしながら、その管理ができず耕作をされずに、荒廃し機能されない棚田は限りなく多い。棚田を維持するための方策は？山間地で営む農業事情を考える。

CAST

内川 義行さん(信州大学学術研究院農学系助教)
主な著書:『山と里を活かす』信州大学山岳科学研究所編(共著)
『棚田学入門』棚田学会編(共著)

5

棚田が育む生命(いのち)



～ 小谷の生物が伝える自然環境～

地形が急峻な山村地域では、開発が進まず昔ながらの農法や伝統的な生活技術が今でも維持されている。こうした里地・里山には、平地では見ることができなくなった様々な生き物が生育している。山村の生活と生物多様性の維持・両立を考える。

CAST

武生 雅明さん(東京農業大学地域環境科学部教授)
主な著書:『世界遺産 屋久島—亜熱帯の自然と生態系—』
『Co-benefits of sustainable forestry』

6

棚田まもりびとミーティング



～ 棚田はどのように守るのか～

『棚田を守る』決意をもって、日々棚田の保全を目的として活動する全国の棚田保全活動団体。農業情勢の低迷、担い手の不足など多くの問題が山積みの中、生き生きと活動する団体の皆さんの事例などを意見交換する。

CAST

中島 峰広さん(早稲田大学名誉教授)
棚田学会顧問・棚田サミット開催地選定委員会委員長
主な著書:『日本の棚田』『百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』

7

世界の傾斜地農業を語ろう



世界の文化が違いうように、棚田もそれぞれの顔を持っている。傾斜を有効利用する景観に人々は感動する。しかし、日本同様、耕作放棄など深刻な課題を抱えている。世界の傾斜農地について、写真や映像とともに取り組みを語り合う。

CAST

山路 永司さん(東京大学新領域創成科学研究科教授)
棚田学会副会長
主な著書:『棚田学入門』『改訂農村計画学』など

8

自然の中で支えあう姿



真木集落「アラヤシキの住人たち」のいま

昔ながらの手作りの生活を実践している真木集落の共働学舎。ここを描いた映画『アラヤシキの住人たち』ダイジェスト版+アラヤシキに水車をまわすプロジェクトの記録映像を上映。キャストが集落での暮らしぶりなどを語ります。

CAST

本橋 成一さん(映画『アラヤシキの住人たち』監督・写真家)
大槻 貴宏さん(映画『アラヤシキの住人たち』プロデューサー)
宮嶋 信さん(信州協働学舎代表)



MAP

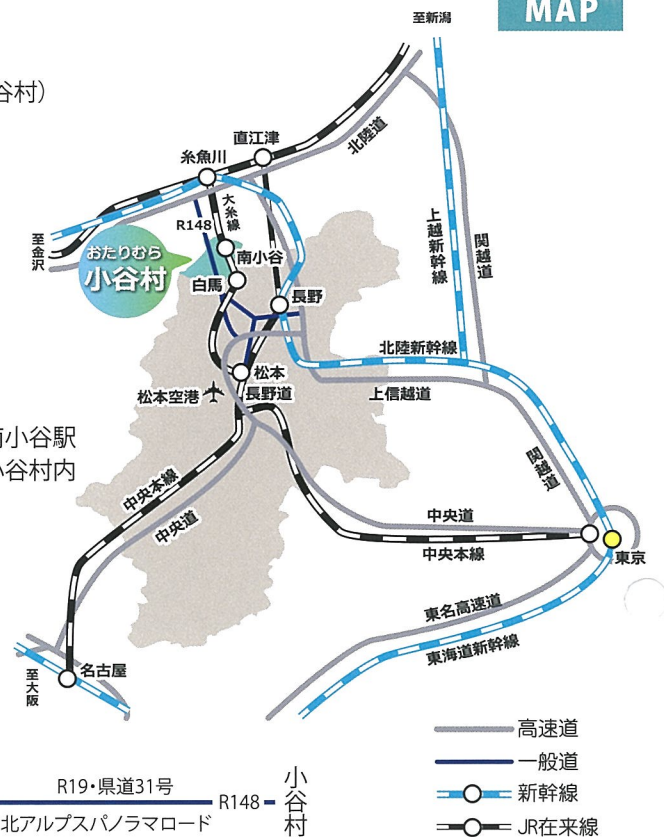
東京方面 新幹線 長野駅 路線バス 榑池・白馬乗鞍(小谷村) シャトルバス 小谷村内

新宿 特急あずさ 松本駅 JR大糸線 南小谷駅 名古屋 特急しなの

大阪方面 特急サンダーバード 金沢駅 新幹線 糸魚川駅 JR大糸線 南小谷駅 シャトルバス 小谷村内

松本空港 空港シャトルバス 松本駅 JR大糸線 南小谷駅 シャトルバス 小谷村内

東京方面 関越自動車道 藤岡JCT 上信越自動車道 長野IC R19・県道31号 R148 小谷村 名古屋方面 中央自動車道 岡谷JCT 長野自動車道 安曇野IC 北アルプスパノラマロード



榑田サミット専用シャトルバス時刻表

9/7(金) 小谷村 行き

長野駅東口発 12:00/13:30/16:00
糸魚川駅発 14:00/17:00
松本空港発 12:00/14:30

9/9(日) 小谷村 発

長野駅東口行き 13:00
糸魚川駅行き 12:10/13:00
松本空港行き 13:00

期間中随時運行

南小谷駅
榑池社会体育館
白馬アルプスホテル
ホテルグリーンプラザ白馬

※要予約 ※サミット参加申込時にご予約ください

開催会場 MAP



第24回 全国榑田千枚田サミット 開催地:長野県北安曇郡小谷村 主催:全国榑田(千枚田)連絡協議会
主管:第24回全国榑田(千枚田)サミット実行委員会 〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村大字中小谷131 小谷村役場内
TEL 0261-82-2865 FAX 0261-82-2866 E-mail info@otaritanada.com URL http://otaritanada.com/

おたりむら 小谷村